





門 4  
號 2464  
卷 1 明

鑄 新 年 六 治 明

河 邨 貞 山 編

# 單 語 國 字 解

西 京 書 林

松 栢 堂  
文 石 堂

發 兌

單 語 國 字 解 初 篇 卷 上

河 村 貞 山 集 說



**日**

日ハ一火赫イナダクして。此世界ココノヨより大なるオホクは、百系ヒャクケイ倍バイ速スベクなり。其の外面ソノソトと包ツクたるツク素ソノよりツク護マモり。其の體ミを却カエて暗黒アンコクなり。凡ソトて世界ヨの一切イチツクの物モノ。

**天文**

天ハ積素セキソなり。今頭イカふ戴カく処トコロ天アメと云イハふ。日月ニツギツ星辰セウジンの空ソラに附ツキ着チカるルは、衣裳イシヤウの文モンのノごとく。故ユに文モンと云イハふ。

**星**

星ホシに動ウツくものノと動ウツらぬものノとあり。其動ウツくものノと水星スイセイ金星キンセイ地球チキウ火星カウセイ次ツギに木星モクセイ土星ドセイ天王星テンワウセイ海王星カイワウセイ。

**月**

月ハ世界ヨの附物ツキモノハ行星コウセイの其一ヒトツクなり。其體ミは走ハシるなり。日光ニツクを藉カりて世界ヨを照スる。

**風**

風カゼは空ソラの流ナ動ウツくものノと。其形カタと詳コトバにシるルは、能スく定サるル星ホシ恒トコ星ホシと云イハふ。

單 語 國 字 解 初 篇 卷 上



は雨より一名  
白雨又驟雨

此世界の北の  
果よりくわい

**火**

火の質ハ陽少して性ハ陰  
外明少して内暗一。天ハ火

てハ日と相里電とせり。  
地ハ在るハ火と為は

**地理**

山岳河海郊野田圃おとそ大地ハ載はるもの  
皆地ヲ理とて此ハ山岳ハ川と區別して

筋合と  
考と云

**水**

水ハ蒸化の源とて其体ハ純陰其用ハ純陽其勢ハ能く  
カを均す其性ハ平らに流るは上より下へ雨露霜雪と

下は河海  
泉井と形は

**土**

大地の形圓故ハ地球とて周ハ一帯ハ百九十三  
里餘其面ハ窪隆あり窪ハ河海隆ハ山岳平ヤはとらハ陸地なり

實々以世界ハ惑渾の一小にして毎日運轉して昼夜及び四季を作す

**國**

其土地を五とて稱を付名ふて大國とて土地の構への大なる  
形も小國とて構への小なる形なり日本國のこゝに周圍凡二千五百

二里餘幅員およそ二千三百  
二百八十六方里餘ありと云

**郡**

郡ハ群なり人の羣聚するを云  
字書に作る。とらるる秦の世天下

と分て三十六郡と  
もはと始と

**府**

震々の州郡と數多支那ハ京都ハ一と並  
小及ぶは攝小引交を裁判を付る役所の名也

**縣**

縣ハ懸なり郡に懸てを云とありこれハ支那少く秦漢以後  
のこゝに有。彼戰國の比ハ形も理縣のこゝに有はひや有あり

**村**

古の邑少てとて段々に聚るを云  
一邑を率ひたるその名なりと云

**里**

五家を隣と。五隣と  
里と云。又云五家を軌と

十軌を里と云。又云里ハ止形も五十家共小居止まるなりと  
支那ハ朝のり形。坊と云ひたるを里と云ふなりと云

**市**

貨物を交

易ハ市場所なり。後世は  
人の群聚するを市と云

**町**

旧畝安の積數を町と云。後世  
は一區の比屋を町と云



**濱**

水際

**津**

水の合はる處と云。津浦と云。橋のつらぬ所。津浦と云。

**洲**

水中の居る地。洲と云。人及び

鳥類の聚る所。息ふと云。鳥類の聚る所。

**入江**

江流の水の陸地へ灣入せし所。湾と云。灣と云。灣と云。

**堤**

土を築き水を防ぐ。

河湖の縁に沼ひたる地。沼と云。沼と云。

**堀**

長き水の坑と云。堀と云。堀と云。

**澤**

地を平下にして水の貯る所。澤と云。澤と云。

**池**

水の流を停せしめ。沼と云。沼と云。

**沼**

圓形池と云。曲まを沼と云。又云水の貯る所。沼と云。沼と云。

**溝**

水の落合て流るる。又田間の水と溝と云。

**瀧**

水の高き所を落下りて流るる。瀧と云。瀧と云。

**瀉**

海邊の地。

潮水の漲落小よりて。或は海或は平地と云。漲と云。漲と云。

**巖**

石の窟と云。巖と云。巖と云。

**石**

石の大地の筋骨と云。石と云。石と云。

**砂**

石の細小。

水と放つ。木に前ふ。木と放つ。木と放つ。

**泥**

水と土と和らしたる。

**暗礁**

海中の隠れたる石。暗礁と云。暗礁と云。

**樋口**

水田を引く所。樋口と云。樋口と云。

水と放つ。木に前ふ。木と放つ。木と放つ。

**水柵**

木を排て水を防ぐ。

田園小澆。木と聚る。木と聚る。

**橋**

木と聚る。木と聚る。仁徳天皇十四年十一月。猪甘津に橋と云。橋と云。橋と云。

舟橋と云。其始なり。石橋と云。舟橋と云。舟橋と云。

**浮標**

海中の暗礁寄砂。小舟の乗上り好む。浮標と云。浮標と云。

所くに標と云。立をよと云。波と云。波と云。

**波**

水物小はらうて碎け散る。波と云。波と云。

**潮**

海の塩水のこぼれ。潮と云。潮と云。

漲落りて。月の盈虧小應と云。漲と云。漲と云。

**金石**

石の葉の核土の骨なり。大は晶石。細は砂塵なり。其精は金と云。玉と云。玉と云。

**金**

五金の内黄金と云。長なり。久し埋もる。衣を生成せ。百鍊と云。金と云。金と云。

日本古言に五金と云。五金と云。五金と云。五金と云。





て每夜漢河小光り物あり一が漢師細く巨蚌を獲たり其殼中  
小真珠あり大さ桃の如く光り幻其珠を琢り希代の寶物とす後一

數

一 數の始なり 陽の始なり  
二 地數の始なり 陰の始なり  
三 陽の一を以て陰の二を合  
て天地人三才の道なり

四 二を倍する 二を四にする  
五 一より五に至る生數を云  
ふより十に至る成數を謂ふ  
六 二四を積む六なる  
之を老陰とす

七 少陽の數  
八 少陰の數  
九 一三五を積む九と  
する之を老陽とす  
十 數ハ一を生じて  
十に成るなり

百 十を十を  
千 十を百を  
萬 十を千を  
億 十を萬を

方

東 西北の  
西 東南の  
南 西南の  
北 西南の  
乾 西南の  
坤 西南の  
巽 東南の  
艮 東南の

東北の  
隅なり  
上下  
左右  
前後  
中

形

角 九 三角 菱 長 短 高 低 曲 直 薄

厚 縱 横 廣 狹 太 細 尖

色

青 黃 黑 白 赤 紫 綠 青 黃 鼠 色 萌 黃

花色 赤白色又儼  
茶色 柿色 紺 深青に赤  
浅

黄 浅葱 鶯色 褐色 桃色 紅色 鶉色 鶉色  
鶉色

色 黄黒 栲葉色 藤色 蒲色 飴色

度 度數ハ忽り記付尺ハ人の體をもつて計付  
指を布て尺を知り腕をのぞき尋ねし付

丈 十尺 尺 十寸 寸 十分 分 十厘 釐 十毛 毛 十絲

量 量の數ハ圭ヨリ起る一圭ハ六十黍なり  
又云量ハ三ヨリ起る一圭ハ六十黍なり

斛 十斗 斗 十外 升 十合 合 十勺 勺 十戈 抄 十撮 撮

十圭

衡 衡數ハ黍  
ヨリ起る

貫 十双 匁 十分 分 十厘 釐 十毛 毛 忽ハ小數の名蚕の吐  
度の絲を一忽ト云

十忽と一絲ト  
十絲或一毛ト云

貨 通用の金錢  
と貨ト云

兩 今四分と云つて一兩ト云  
茶劑ハ凡そ四分と一兩ト云  
分 今四銖を合  
一ト云  
銖 今六錢二  
厘五毛ト云

珠 三錢一厘二  
毛五と半銖ト云  
圓 四分一兩即ち一圓金なり  
圓ハ貨の形ト云  
名らく○新貨一圓ハ旧貨一兩ニ當る○圓小金

皇古國之解力備夫一

貨五種。銀貨一種。紙幣七種。又金貨十圓。英貨あり。二ホト。佛貨あり。五十フラン。米貨あり。十ドル。ラルはあり。

**錢** 新貨一錢。

即ち耳白錢十枚。小はあり。銅貨二種。帝幣四種。行はあり。今

**整** 新貨一厘。即ち耳白錢一枚。小

あり。今銅貨一種。千枚。一圓。小換ふ。○以上の名稱ハ時世ハつて変動ありて古今宜きなり。

**田尺**

**段** 十畝を一段とす。即ち三百

**畝** 三十歩を

**間** 方六尺を一步

**町** 十段を一町とす。即ち三千歩なり。

**時**

**春** 春ハ蠢る。穀物陽春と

**夏** 夏ハ假り。穀物假大

**秋** 秋ハ

穀物攀飲て成

**冬** 冬ハ終り。穀物

**朔** 新月の前日を朔とす。明

**晦** 月全ク地上小見え

**日** 日行と月行と速速

閏ハ四年に一日づきあり

**時令**

時ハ季節候なり。令ハ差。國ハ時を理。言ハ

信ハ如

**朝** 日輪の出る時

**夕** 日西小傾き。夜の暮

**曉** 夜明けの

又之れ 晝 日の高へ入候まて晝登り。 正晝は日中の十二時 夜 日暮の又之れ 間を夜といふ

昨日 昨日 今日 明日 明後日 暑 暑の者やると熱し 寒 暑の對し 暖 日光の 涼 輕寒と 冷 又云 熱也

物と煮候 寒 暑の者やると熱し 寒 暑の對し 暖 日光の 涼 輕寒と 冷 又云 熱也

甚し江と互と云

居處 居の家居なり。 處に住處なり

宮 古ハ貴賤とも其居處を惣て宮と稱せり。 後世ハ至尊皇族の外。稱ま候を得也 殿 堂の高大なり。今ハ民間

撰りに稱 樓 屋を重なる 城 内外を城といふ。 外城郭といふ 廳 訴詰を辨し 賞罰を弘む所

邸 支那漢の制ハ九服國朝宿の舎京師中なるもの率邸と名 支那漢の制ハ九服國朝宿の舎京師中なるもの率邸と名

の鎮坐とま稱し 其他ハ皆社といふ 寺 元官舎の名なり。支那漢の明帝の世西域より 佛僧經卷料末皇帝鴻臚寺に迎へて白

馬寺と名づこれ 佛寺の親称 驛 馬を運て行旅の往 來に便す處なり 宅 宅ハ居なり。屋なり。又人

店 座なり。物を 齎ぐ處といふ 倉 屋なり。粟なり。子屋なりを倉といふ。或ハ 穀藏代倉といひ。米藏を廩といふ也 土藏

塗炭の舎は物を蓄ふ所を藏と云。 其築造はよくよくの名目あり 穴藏 地小なり。方なり。物を賣す といひ。圓き穴を穿し

馬を聚止 馬立 馬を繋ぐ 處なり 湯殿 浴室なり。浴ハ身を洗 ぶなり。又湯といふ 厩

俗ハ雪隠則古ハ清といふ。その 不潔常に清を除去しき以なり 牢獄 罪人を捕 長家 一棟

居イキを分つ  
家イヘとらふ

**平家**

二階ニカイをい  
家宅カタクの稱

**臺**

高く築ツキ上ノベて四方ヨコヨコを觀ミ作ツク場バ也ナリ  
屋ヤにカ臺ノをキ臺ノとシひ。有アと謝す

**棟**

棟ムネハ屋ヤの脊セ  
の柱ハシをい

**梁**

棟ムネを貫スくも  
の梁ハシをい

**柱**

屋ヤを支サす  
木キ好ヨクき

**攘**

揃スりも書カく。攘ハ  
櫛ハシの旁ナドの下ノに立て

垂タラシる  
もの也

**桁**

横ヨコ木キの

**拵**

衡ハカリを兼カる  
木キをい

**窓**

牆ツツにあるを牖ヨミといひ。屋ヤにあるを窓マダ  
り。戸カドにあるを明アカりといふもの

**天井**

藻サウといひ。井セイといふ。水スイ床サダの飾カザリを加へて  
大オホ受ウケといふ。丸マル天井マダラといふ。穹クウ窿リウといふ。

**敷居**

屋ヤ中ナカ内ナイ外ガイの限カギ  
を区ける溝ミヅと

ついで戸障トシヤウ子コを  
屏カマドといふ。

**鴨柄**

敷居シキイの上ノ上ノ相アヒ向ムカひ溝を作す。戸障トシヤウ  
の屏カマドを自ら作す。

**垣**

垣カキの牆カキ  
をい

早ハヤきといふ。垣カキといふ。  
高タカ江エ城シロ塙ノといふ。

**屏**

垣カキと同義ナリ。今  
屏カマドの字ナリ。作スる。

**瓦**

泥ドロを焼てこもを作スる。屋ヤ宇ウの上に蓋す。葺フキくもの也ナリ。

**壁**

室ムロの屏カマド  
蔽カクレす。

**簷**

屋ヤの四ヨ方ヨコヨコに垂タラシゆ。處トコロ少オウし宇といふ。宇ウハ  
羽ハをいふ。鳥トリの羽ハ翼ハネの自ら覆フ蔽カクレす。

**廡**

堂ダウ下ノの周ナド  
の廊ナドといふ。

張テり出る。屋ヤ  
根ネの下ノ下ノ理リ

**撮**

屋ヤの揃スり

**屋根**

屋ヤ脊セと  
母ハハと

**戸棚**

戸ト内ウチ小コ幾イ層サヤ  
棚タナを架す

家具カグと藏す  
む。ゆといふ。

**廊下**

家宅カタクの間マ小コ矮ヘタく屋ヤ檐エを付け往来キ  
を通す。處トコロ板イタ敷シり。土間ツミにある。

**二階**

根ネ屋ヤ

といふ。上ノの居イる家をいふ。  
西洋セイヨウ小コ五ゴ層ソウ七シチ層ソウの理リ

**欄杆**

欄ランといふ。軒ケン窓マダの下の楯子シをいふ。  
版イタをこらてまを作スる。杆コナといふ。

**羽目板**

板イタ壁カベのしり。或ナドハ設セけ。或ナドハ  
取ト除ケくべきもの也ナリ。

**障子**

障サウハさゆゆゆといふ。訓ムむ。  
風フウ雨アメを障止トむ。屏カマド

皮クニの居イる子ハ付ツく字  
あり。又ナド亮リョウ隔カクもある。

**襖**

和訓ワクン寢間ネマ障子サウジ格カクと  
両面リウメン張テり。具クをいふ。

**敷石**

礎イソギをいふ。石イシを  
地チ上ノ平ヒラ面タマ

に布ヌといふ。云クモといふ。  
布ヌと敷す。

**鍊化石**

西洋セイヨウ家カ作サ小コ用ヨウす。石イシをいふ。  
土ツチと練り。火ヒを焼きしる。也ナリ。

**器財**

器キハ器キ用ヨウ財サイ  
道具ドウグ也ナリ。

**紙**

本邦製紙ハ推古天皇の御宇。厩戸皇子高麗僧曇徴に於て製法を傳へ。其性弱く用に堪へざり。して皇子更小楮ともつ。初て堅紐の物

**墨**

古ハ黒き土をとりて作らる。故小字黒土に云ふ。今ハ煤膠に香料。或ハ紅花汁を和て製さる。筆 秦の蒙恬始て筆を

**硯**

支那ハ端州の端溪青州の紅綠石を採りて。本朝ハ長州の下關丹州の石王子若州の玄川を佳品とす

**書**

舒卷べきを巻と云ふ。編次ものを帙と云ふ。書物の外題を簽と云ふ。又書物の讀下止絶作を句と云ふ。語の終絶されども。點して分ちて

**畫**

必攝氏易を作り。政を治む。其書ハ但其形

**算**

算ハわざと云ふ。訓也。即ち算本算盤と云ふ。天地の理を究み。萬物の數を知れ術と云ふ。曆

**外**

天武天皇慶雲二年。始て斗量と造り。諸國

**尺**

今の曲尺ハ明の製に據る。工匠の用る。裏金の一尺ハ表の一尺四寸一分四厘餘に作る。竹尺ハ裁衣の尺。鯨の鱗を以て作る。故小鯨尺と云ふ。其法曲尺と四段と。これ一一段と加ふ。故小其八寸ハ曲尺の一尺と云ふ。貨幣

**貨幣**

以少く金銀を以て。流通す。故小金銀錢鈔とも通して貨幣と云ふ。札

**札**

古人ハ地中席を坐ら。疾風をば。凡ハ憑信。食事及び書を以て存す。皆案牘と云ふ。案ハ即ち札と云ふ。錢

**錢**

周の太公始て錢を鑄。元泉と云ふ。泉の洋と云ふ。流通す。故小金銀錢鈔とも通して貨幣と云ふ。劍

**劍**

兩面あり。刃

**刃**

兩刃

**印**

印判ヤウ。判ハ分つ。訓也。即ち符印の意。天子の印。寶と墨と名はる。弓

**鎗**

後世其首に鋒を施し。尾に鐔を加はる。箭

**箭**

弓ハ

**弓**

箭ハ

**紙**

本邦製紙ハ推古天皇の御宇厩戸皇子高麗僧曇徴に於て創る  
ゆに其性弱く用に堪えざり。して皇子更木楮ともつて。初て堅紐の物

**墨**

古ハ黒き土をとりてはく。故小字黒土にハル。今ハ煤膠に香料。或ハ紅花汁を和て製す。筆 秦の蒙恬始て筆を

**硯**

支那ハ端州の端溪青州の紅綠石を採りて。本朝ハ長州の下關丹州の石王子若州の玄川を佳品とす。

**書**

舒卷べきを巻く。編次ものを帙とす。書物の外題を簽とす。又書物の讀下し止絶作を句とす。語の絶たれとも。點して分ちて

**畫**

必攝氏易を作り。政を治む。此書ハ但其形

**算**

算ハわざと。訓。即ち算本算盤とす。天地の理を究み。萬物の數を知。術とす。

**曆**

天武天皇慶雲二年。始て斗量と造り。諸國

**衡**

元明帝和銅六年。權衡度量と。天下諸國に頒ち下し。稱の鑿を權とす。其横本を衡とす。

**尺**

今の曲尺ハ明の製に據る。工匠の用る。裏金の一尺ハ表の一尺四寸一分四厘餘にす。竹尺ハ裁衣の尺。鯨の鱗をりて作る。故ハ鯨尺とす。

**貨幣**

以少く金銀を。一にきハカ。布皮貝を以て通用の貨とす。

**錢**

周の太公始て錢を鑄。元泉と云。泉の洋とす。流通とす。

**札**

古人ハ地ハ席。坐。疾。行。ま。凡。ハ。憑。信。食。事。及。び。書。を。し。存。あ。も。皆。案。牋。と。す。案。ハ。即。ち。札。と。す。

**印**

印判ヤ。判ハ分つ。訓。即ち符。即。の意。天子の印。寶。と。璽。と。名。は。く。

**鎗**

後世其首に鋒を施し。尾に鐔を加へたり。

**刀**

兩面ハ刃。即

**弓**

箭を

單音國字解の備考

放ら遣る  
の器ツツ

**矢**

矢ハ指やり。指の所なり  
て疾く射るものなり

**旗**

旗ハ軍將の建所衆其  
下に期するなり本朝所謂

ノボりられ  
にあくは

**大砲**

砲砲珂納紅衣礮等  
皆よりて大砲といふ

**小銃**

馬上銃施條銃  
銃槍等種く有

**鞍**

西洋の馬具ハ多るは皮革を以て製す  
て損ト易わくは本朝ハ本質金飾なり

**鐘**

鐘ハ鞍の両傍おる  
し。馬の招小當る。

乗者足と  
兼ふ具

**手綱**

韉もつ。馬の細りる。布或ハ絹  
を用て作。西洋ハ革を以て製す

**鞭**

竹本革製  
つらくはる。

馬を督して選  
にを驅は具

**舟**

神世ハ天磐椽樟船埴土船。天鳩舟なり。神武帝  
吉備國高島宮少。舟楫を備ちる。これ人世の始

**蒸氣船**

火氣を以て船と行は。其  
駛駿し。舟の第一なり

**軍艦**

西洋の制。其  
堅牢宏大

ゆる。恰も城壁のし  
。故ハ海城といふ

**帆**

舟の上の幔。以て風を汎  
べはもの。其柱と檣と云

**碇**

鉄釘なり。本  
石を舟と繋

定体  
具也

**舵**

一小舵に作は。舟の尾に似て軸小  
なり。船の向を正す本なり

**棹**

船と盪し進む具なり  
。竹本と母に似る

**槽**

船と進む具。權  
小似て太く圓

**車**

車ハ重きに任。速を致す功なり。人を駕て  
行を輦といひ。有少て行を輦といひ。物を載す

と輦車といひ。蒸車を以て  
や。和を。漢車といふ

**鋤**

鋤ハ地小挿まて  
土を記す具

**鋤**

地を割りて。  
坎と云はる具

**鎌**

柴の條を刈は。鎌ハ厚みなり。  
禾草を獲は。ハ。刈はるなり

**碓**

足。抵の尾を踐は。頭隨て上り。足と  
攀る。既して下り。本自ら翻倒して

精白にす  
具なり

**機**

織具なり。繒帛  
機本綿機なり

**絲**

絲ハ繭より出り。綿の實と  
紡ぐ。本綿糸といふ

**針**

衣を縫ふ針なり。  
す。鐵に作は

**絲車**

紡車なり。絲  
を紡はる具

**鋸**

刀に似て。齒は。その根  
隅鈎ハ。捆の溝を彫はるもの

引廻ハ。竹と切はるもの。大鋸ハ。拙人  
の用は處。其他前挽。基挽等なり

**鐵**

木と穿  
つの器

**釘**

釘ハ高下の逆ハ  
平らに作はる器

黃帝初作舟車  
以濟不通



**鉞**

本と平らに  
する器とん

**錐**

錐ハ銳ヤる。孔と通る器として方錐三  
稜錐三又錐壺錐の教品也

**釘**

錢の找也  
鑽しと

蓋ヤ此釘  
の稱ヤる

**網**

網ハ惣名魚と捕るもの塘網撒網綽網  
坐罾等あり。鳥とくは網を羅しと

**鈎**

魚を釣  
針を鈎

繒綸と  
繒綸と

**鏝**

土を塗る道具にして鶴頸  
柳葉等形ふ種て名づく

**鑿**

鋸齒と利兼て  
銅錢のふたを

吹草

靴ヤる狸の皮を作るを良  
草裏少て治火を吹く具也

**輓轡**

水を汲む釣  
籠に掛る具

計

風雨及び晴  
と報するもの

**磁針**

方角を指  
す針なり

**時計**

晝夜の時刻を  
知る器なり

**晴雨**

望遠

鏡

千里鏡

**電信機**

遠く銅線と電氣に張る  
て音信を通ずるもの

**機關**

繩

藁繩藤繩  
絞ると細くする

**紐**

絞ると細くする

風呂敷

布或は帛少て裁る。大小意に陸る物と  
包くも負戴提携に便するものなり

**笙**

女媧  
氏の

琴

欽定詩經曰東陳氏祥道曰笙。大者十九簧。小者十三簧。  
管端吹笙則鼓動其簧而發聲。笙之絲三線也。

**大鼓**

古今製異なり。其聲短  
う。双槌をもつて撃つ声

琵琶

本北胡馬上の樂器なり。手と前に推  
と琵琶のひもを後に却を琵琶と

**刺**

刺ハ

屏風

圍屏を云。屏ハ蔽なり。高六尺以下にして六曲。四  
曲二曲ヤる。矮き杖枕屏風と云。潤や二曲也

**壘**

壘ハ重なり厚  
也重疊の義

椅子

椅子ハ惣稱小く方椅圓椅  
折疊椅竹椅のなほひあり

**疊**

疊ハ重なり厚  
也重疊の義

席

欽定詩經曰東陳氏祥道曰笙。大者十九簧。小者十三簧。  
管端吹笙則鼓動其簧而發聲。笙之絲三線也。

**席**

席ハ

戦陣

戦陣ハ用  
鳴り物

**壘**

壘ハ重なり厚  
也重疊の義

**鉈**

本と平らに  
する器とん

**錐**

錐ハ銳なり。孔を通る器として方錐三  
稜錐三又錐壺錐の教品也

**釘**

錢の找也  
鑽とん

蓋の針  
の稱なり

**網**

網ハ惣名魚と捕るもの塘網撒網綽網  
坐罾等なり。鳥をとる網を羅とん

**鈎**

魚を釣  
針を鈎

釣線と  
緇綸とん

**鏝**

土を塗る道具として鶴頸  
杓葉等形ふ物と名づく

**鑿**

鋸齒と利一兼て  
銅錢のふたを

吹革  
の器

鞞を狸の皮を作るを良  
韋囊少て治火を吹く具也

**輓轡**

水と汲む釣  
籠に掛る具

方角を指  
針とん

**磁針**

方角を指  
針とん

**時計**

晷表の時刻と  
知時器とん

**晴雨**

計  
風雨及び晴

寒暖計  
寒暖の度数を測る

**望遠**

遠く銅線と望に張る  
て。音信を通ずるもの

**機關**

鏡  
千里鏡

**電信機**

遠く銅線と望に張る  
て。音信を通ずるもの

**機關**

縄  
葛繩藤繩

**風呂敷**

布或は帛少て裁る。大小意に陸る物と  
包く負戴提携に便するものなり

**紐**

琴ハ禁なり。淫邪を止  
し。人心を正し器とん

**大鼓**

古今製異なり。其聲短  
う。双槌をもつて撃つて声

**笙**

臣隨つて人作る。笛の居みして長  
四寸十二の簧ハ周の身に象と好む

**笛**

竹ハ一條なり。邪穢を滌ふ  
雅正に納揚るの器なり

**笙**

琵琶  
本北胡馬上の樂器なり。手と前に推  
と琵琶とひ。手と後に却を。琵琶とん

**刺**

古今製異なり。其聲短  
う。双槌をもつて撃つて声

戦陣に用  
鳴る物

**屏風**

圍屏を云。屏ハ蔽なり。高六尺以下にして六曲四  
曲二曲なり。矮き杖屏風とん。濶く二曲也

**刺**

椅子  
折疊椅竹椅のなほひなり

**疊**

疊ハ重なり厚  
也重疊の義

**席**

單語國字解初編卷上

單語國字解初編卷上

疊

疊ハ重なり厚

也重疊の義

竹造莞席蒲席佳  
文席の敷製り

衝立

曲摺ものを屏風  
曲摺ものを屏風

階子

長き  
長き

と雲様縄めて絢  
しと縄様

簾

竹を編む  
肉外を障り

櫃

櫃ハ厨子似て上  
向ひ。闔開

のやま。引か  
と抽匣

葛籠

葛蔓を織て作  
衣履を納め

箱

蓋の惣名に  
方圓諸形様

長持

櫃の大やうの  
器財を藏り

箆筒

衣厨と小袖箆筒  
書厨茶厨等數品

釣瓶

水と汲上  
杯桶

盥

盥を洗ふ

手

手に提  
桶

柄杓

本に提  
瓢を瓢

燧

燧鎌  
火を出

箆

塵埃と  
掃ふ具

箕

糞を除き  
米を簸

火鉢

火爐より火を  
物と焙り

火筋

火爐を  
火筋

鐵瓶

鉄少く作  
を煮

藥罐

銅少く製  
物を煮

甚だま  
やう

插盆

插木

插盆ハ物を研  
插木ハ柳の本

蒸露罐

物を蒸して  
滴露を采

硝子壺

玻璃を  
を蓋り

行燈

其形  
一

室内を照  
燭

提灯

暮夜提  
を放

燭臺

數品  
油

燭兩用の  
蠟燭

蠟燭

燈心草と心柱  
を塗

薪

炭

木炭より石炭  
用多

庖刀

魚鳥を割宰

俎

魚

板より魚鱗を屠  
俎

鍋

物と温火熱  
鑄と鍋

釜

釜の居

足ヤレ

**竈**

竈ハ炊爨する處なり。竈の後の穿を窓と云ふ

**膳**

膳ハ飲食兼備の惣名也。今將して食札と云ふ

**碗**

飯を蓋する器なり。瓷器概と云ふ。漆器の本聚を概と云ふ

**箸**

食事を用ふる所。或ハ匙とも云ふ

**皿**

小き盤と云ふ。深き盤

と鉢と。浅きを鉢と云ふ。磁器なり。錫器ハ漆

**鉢**

鉢ハ一名應量器。僧徒乞食のしる。施物を量るもの。今將して深き鉢と云ふ

**桶**

水を貯ふる器なり。手ハ成提桶と云ふ。小桶と云ふ

**瓶**

邦俗所謂埴瓶なり。大

製のもの。壺ハ木

**臼**

穀を舂る器なり。木の肥たを用て作る

**杵**

舂く槌なり。数様を方今ハ多く槌の大形

好如きを用ふ。も成搗杵と云ふ

**盃**

神武帝考之山の埴土を取り。平瓮を作ると云ふ。地のもろくの神祇をまつたもの。さき盃の始ハ

盃本益兼もちふ

**鈿子**

鈿ハ酒を酌むる器。長柄なり。備提の。當世公の饗待は供

**烟**

倉ニ用ルハ鐵銃銃ト云

**管**

煙草を喫む器具

**錠鍵**

錠ハ鎖と名く。もとと牝と。鑰を牝と云ふ。錠車錠。蝦錠なり。戸或ハ櫃箱等を閉固

**囊**

袋同。底のたを囊と云ふ。底ヤレと云ふ。俗ハ西口と云ふ

**擗**

鬢髪を疏通するもの。故ハ一名梳と云ふ

**笄**

髪を固むる所以なり。字書ハ又云ふ

**簪**

頭小かんざしに挿すもの名なり。むし支形あり。官階ハ男子ハ

飾りもの。冠の飾り

**鏡**

人の面を照らすもの。又鑑と云ふ。鳥の妍媸をかんがふる也

**竿**

物なり。竿杖と云ふ。衣を

曝す竿

**杖**

老を扶け行を助ふる。杖養の具なり。又素木ハ杖を指のりて杖と云ふ。自ら脊を擗くもの。爪杖と云ふ

**剪刀**

用ふ。又衣裳を裁つ小刀をも剪刀と云ふ。齋ハ断意按之切の具。通俗ハ剪刀の字を

**髮剃**

髪を剃る

除ほす

**扇**

扇又箑と云ふ。古ハ羽をて為る。故ハ字羽と云ふ

**團扇**

扇ハ似る物を撰ぶ。故ハうちと云ふ

單音國字解力編卷二

十六



トとつひ著せらるる

**師**

人小術藝を教  
え導くもの稱

**弟子**

學者の師小事する  
こと父兄を尊ぶる

如し故ゆ寄人  
を弟子とす

**朋友**

師と同らるるを朋とす  
志を同らるるを友とす

**騎兵**

馬乘の  
兵也

**歩兵**

徒歩立の  
兵也

**児童**

兒ハ子なるもの惣名  
童ハ人十五以下を謂ふ

**婢**

女子の  
人に仕ふるもの

**僕**

男子の  
人仕ふるもの

**從者**

人小附從者  
給事するもの

**男**

男ハ任  
り功業を  
責任するもの

**女**

女ハ如也。夫とて  
嫁しては夫に如し。夫死しては子に如し。婦教小如し。

**高祖父**

曾祖

父の父也。五  
世の祖を云

**高祖母**

高祖父の  
母也

**祖父**

父の  
父也

**祖母**

父の  
母也

**父**

父ハ甫やう。甫を己  
とて生むるもの也

**母**

母ハ慕やう。子なるもの  
慕ひ親むるもの也

**夫婦**

諾冊  
の二

神始とて適合して夫婦とす。夫とて始とす。又  
婦ハ女子の人は嫁するもの。姑ハ又妻とす。

**妻**

妻ハ齊やう。夫  
と齊し家事を

治むは  
とす

**妾**

妾ハ接する。接ハ  
又夫婦の禮を備へるもの也。接幸せらるる也。

**伯父**

父の兄  
と云

**伯母**

父の姉  
と云

**叔父**

父の弟  
と云

**叔母**

父の妹をバ  
と云

**舅**

母の兄を大舅母の  
母を叔舅とす

**姑**

伯母叔母  
の通稱

**兄**

男子の先  
生を兄とす

**弟**

後小生るを弟とす。弟ハ弟  
やう。次身して生れる意なり

**子**

凡そ人の一呼一吸を一息とす。  
子も又吾生むるものゆゑに

息を子  
と云

**孫**

子の子なり。孫の字子孫  
小从ふ系ハ續く事

**姪**

已より先  
生をいふ

**妹**

おのまのまを後  
生れる妹とす

**曾孫**

孫の子  
也

**玄孫**

曾孫の子。俗  
に玄孫とす

**甥**

兄弟  
の子

と云 甥 兄弟の女を云ふ又云  
甥のしを姪も云ふ

**身體**

身は鼻目耳口百體の該稱たり  
體は脊骨肩臂の屬に就る也

**頭**

一身の尊百骸の長諸陽の會五行  
の宗高きに居て圓なり天の徳小象也

**領**

頭の茎

**面**

物皆

脊より面より人の眉  
間のるを髪と云ふ

**目**

目ハ肝の竅也  
能く五色を辨ぜ

**口**

口の言語の由り出  
はとる飲食乃

由り納は  
しとる

**脣**

脣の切を吻と云ふ鼻  
脣の間を以沖と云ふ

**齒**

**牙**

齒ハ骨の餘り  
口中の上下に

列り物を噬むものを云  
兩旁に肉を牙と云ふ

**齦**

齒の上下  
の肉を云

**舌**

舌ハ心の司り  
舌の五味を知は

**喉**

喉ハ

に居て呼吸を通ず咽ハ前  
小居く飲食ははる

**鼻**

肺の竅鼻の門戸なり  
香臭を聞くとつとる

**耳**

を聴

くを年と云ふ  
腎の候なり

**眉**

眉ハ媚なり兩目の華  
蓋満面の表儀なり

**髮**

髮ハ毛なり  
腎の華と云

**鬢**

鬢ハ

ひがハ早毛なり面部の卑  
きふハ生体毛を云ふ

**腹**

五臓を容裏むものなり  
臍の下を少腹と云ふ

**肩**

肩ハ硬  
の略言

より重きを荷ふハ肩なり又内  
脚骨缺盆骨と云ふ硬き骨なり

**脊**

脊ハ積なり骨節脈絡  
上下を積と云ふ

**腰**

腰

身の中より腿の付  
根の上を膝と云ふ

**乳**

胸の兩旁に  
垂ゆもの

**臍**

臍ハ人の命蒂  
一身の掛り目也

**肋**

肋ハ

五臓を檢  
勒す所以也

**胸**

兩乳の間を胸と云ふ胸の上兩  
旁高きと云ふ脊と云ふ

**腿**

股小同  
大腿なり

**膝**

膝

**手**

人の手ハ身體を保護する為の  
器なり又云手ハ一身の枝葉なり

**腕**

腕ハ掌の交を腕と云  
腕ハ宛なり言ハ宛曲也

**掌**

掌ハ手心なり  
のひらのしなり

**臂**

肱同肘より腕に  
至るまでを臂と云

**足**

足を脚と云ふ脚  
ハ却なり其坐を

心 足の心 心 神を藏むるを主と云

肝 性動て急なり 肝 謀慮の由る處

胆 大腸の糟粕を吐き出すを主と云 胆 小腸の受事の官化物を吐き出す

胃 倉廩の官なりて水穀の海六腑の源なり

腸 大腸の糟粕を吐き出すを主と云 腸 小腸の受事の官化物を吐き出す

肺 氣を吐き出すを主と云 肺 氣の本魄の居る

脾 精を吐き出すを主と云 脾 巧

踵 根也 指ハ示す物と示 指ハ示す物と示

指 指ハ示す物と示 指ハ示す物と示

腎 精を吐き出すを主と云 腎 巧

胆 大腸の糟粕を吐き出すを主と云 胆 小腸の受事の官化物を吐き出す

胃 倉廩の官なりて水穀の海六腑の源なり

腸 大腸の糟粕を吐き出すを主と云 腸 小腸の受事の官化物を吐き出す

肺 氣を吐き出すを主と云 肺 氣の本魄の居る

脾 精を吐き出すを主と云 脾 巧

爪 爪ハ示す物と示 爪ハ示す物と示

爪 爪ハ示す物と示 爪ハ示す物と示

爪 爪ハ示す物と示 爪ハ示す物と示

爪 爪ハ示す物と示 爪ハ示す物と示

爪 爪ハ示す物と示 爪ハ示す物と示

爪 爪ハ示す物と示 爪ハ示す物と示

爪 爪ハ示す物と示 爪ハ示す物と示

爪 爪ハ示す物と示 爪ハ示す物と示

爪 爪ハ示す物と示 爪ハ示す物と示

爪 爪ハ示す物と示 爪ハ示す物と示

爪 爪ハ示す物と示 爪ハ示す物と示

爪 爪ハ示す物と示 爪ハ示す物と示

爪 爪ハ示す物と示 爪ハ示す物と示

爪 爪ハ示す物と示 爪ハ示す物と示

爪 爪ハ示す物と示 爪ハ示す物と示

爪 爪ハ示す物と示 爪ハ示す物と示

衿 衿ハ頸を覆ふ所以なり又襟とも書く

直垂 形長絹小似て總なり布の直垂と

半天 或ハ半纏小作大揉羽織

半纏 或ハ半天纏小作大揉羽織

浴衣 入浴の時に着用

襦袢 肌層に親しむ

袴 長袴短袴の上下通

帯 衣裳を着用して腰

頭巾 方やろを巾といひ

脚半 脛を纏束袖と足よ

合羽 羽織

羽織 羽織

羽織 羽織

羽織 羽織

羽織 羽織





